

令和元年度第1回釜石市介護保険運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和元年 11 月 21 日（木）18:00～
- 2 場 所 釜石市保健福祉センター9 階 講義室
- 3 出席者等 出席委員 11 人
小泉嘉明委員（会長）、栗澤稔委員（副会長）、石田正子委員、内田安子委員、大槻忍委員、久喜眞委員、佐々木てる子委員、佐野和子委員、澤田政男委員、高田健二委員、藤原成子委員
- 4 欠席委員 1 人 鈴木勝委員
- 5 事務局出席者 保健福祉部 水野由香里部長
高齢介護福祉課 山崎教史課長、佐々木義友課長補佐
- 6 傍聴者 1 人
- 7 協議事項 (1)「平成 30 年度釜石市介護保険事業特別会計の決算状況について」
(2)「釜石市介護保険サービス等の状況について」
(3)介護予防・日常生活支援総合事業 住民主体によるサービス（サービス B）の登録団体について」
(4)「介護予防・日常生活支援総合事業 緩和した基準によるサービス（サービス A）の指定について」
- 8 開催経過 ・委員の互選により小泉委員を会長に、栗澤委員を副会長に選任した。
・釜石市介護保険条例施行規則第 9 条第 2 項の規定により、小泉会長が議長となり、議事を進行した。
- 9 開催結果 事務局案のとおり了承された。

主な発言は以下のとおり

（小泉議長）

それでは、議事に入りますが、本日の議事録の署名委員に久喜委員と高田委員を指名いたしますのでよろしくお願いたします。

はじめに、議事の(1)「平成 30 年度釜石市介護保険事業特別会計の決算状況について」と(2)「釜石市介護保険サービス等の状況について」は、関連がありますので、一括して議題とします。

それでは事務局が説明します。

（事務局）

資料 NO. 1、2 を説明。

(1)「平成 30 年度釜石市介護保険事業特別会計の決算状況について」

(2)「釜石市介護保険サービス等の状況について」

（小泉議長）

それでは、ご質問、ご意見を受けます。

(小泉議長)

久喜委員、何かないか。

(久喜委員)

一番は、高齢化率の上昇と出生率の減少ということ。将来を担う介護人材の確保は、今も厳しいが、これからもっと厳しくなる。今年の4月1日で釜石・大槌地域の高校を卒業して釜石地区の介護事業に就職したのは4人。高校生の介護希望の率は変わらないが、数が減っている。圧倒的に希望者がいない状況。今後、ますます各介護事業所もいろいろ協力関係を築いていかないといけない。資料の給付費でも特養関係が減少している状況。介護報酬の引き下げや職員不足で空きベットがでてもすぐに入所させられない。1ヶ月、2ヶ月の空きが出ただけで減収になる。市の施策も各課ではなく総合的なところでいかに維持していくか、大変だろうが頑張ってやっていただきたい。

(小泉議長)

栗澤委員はどうか。

(栗澤委員)

子どもが少ないから高齢化率も上がるのではないか。我々(老人クラブ連合会)の目的は、健康寿命を延ばすこと。少なくとも老人クラブの会員では、介護保険のお世話になっている方はほとんどいない。高齢者が1万3千人以上いるが、老人クラブの会員が1千人くらい。頑張って会員を増やして健康な老人を増やしていきたい。

(栗澤委員)

復興公営住宅の高齢者の1人暮らしが心配だ。公営住宅で老人クラブへの加入を募ったことがあったが、まとめきれなかった。

(小泉議長)

石田委員、成年後見センター等の観点から何かないか。

(石田委員)

震災のせいもあるかと思うが、身内の無い方、いても疎遠になっている方、独居で認知になって方などの相談がよくある。身内がいなくても、うまく地域で付き合いければいいが、男性の方々はなかなか難しい。女性の方々は、すぐにコミュニケーションがとれる。復興公営住宅も高齢化率が高い。女性の方々は結構(外に)出てくるが、男性はなかなか出てこない。地域でも、その辺がうまくできればいい。特効薬はなかなかないが、地道に声かけをしながらコミュニティを作っていくしかないと思っている。

(小泉議長)

次に、(3)介護予防・日常生活支援総合事業 住民主体によるサービス(サービスB)の登録団体について」と(4)「介護予防・日常生活支援総合事業 緩和した基準によるサービス(サービスA)の指定について」は、関連がありますので、一括して議題とします。

事務局が説明します。

(事務局)

資料 NO. 3、4 を説明

(3) 介護予防・日常生活支援総合事業 住民主体によるサービス（サービス B）の登録団体について」と

(4) 「介護予防・日常生活支援総合事業 緩和した基準によるサービス（サービス A）の指定について」

(小泉議長)

ご質問、ご意見を受けます。

(内田委員)

サービス B の通所型登録団体の現在の状況はどうか。

(事務局)

「和っかの会」「荒川ふれあい広場の会」「結の便利屋」は、今年の 5 月に登録になった団体。「お茶っこうれいし」「中村友幸クラブ」は今年の 10 月に登録団体になったもの。市の補助金の対象になっているのは 10 月に実施した「お茶っこうれいし」の 1 団体のみである。他の団体は、市の補助金の対象になる要支援者等が参加していないため補助対象にはなっていないが、地域の活動として通常どおり活動はおこなっている。

(小泉議長)

通所型の場合は、要支援以上の方が参加していないといけないのか。

(事務局)

ケアプランに位置づけられた要支援 1・2 の方が 1 人以上参加していれば通所型は補助金の対象になる。

(澤田委員)

参加者は、町内の方でなくてもいいのか。

(事務局)

参加者は、どの地区の方でも構わない。

(小泉議長)

基本的に、この事業は住民がみんなで応援しましょうという趣旨ということでよろしいか。

(事務局)

そのとおり。支える側に多くの方になってもらいたいという趣旨です。

(小泉議長)

有償ボランティアみたいなもの。みんなでやってもらえばいい。

(澤田委員)

各地区でサロンみたいなことをやっているが、そういう団体も登録することは可能か。

(事務局)

可能である。ただし、市が主催する「支えあいサービス養成講座」の修了者を必要人数確

保していることが必要になっている。

(澤田委員)

既存町内会と災害公営住宅の入居者との交流が地域会議でも課題になっている。こういう制度を使って一緒にやればいいのか。

(栗澤委員)

各地域ではふれあい教室だとか 100 歳体操だとかいろいろなものがあるが、全部に参加している人はいるのか。それぞれの活動で参加している人は別々なのか。

(事務局)

結の便利屋は、100 歳体操にも関わっている。100 歳体操の活動で（支えあいサービス）養成講座を受けて登録団体になることも可能である。

(栗澤委員)

確かに、栗林は様々な活動がある。ふれあい教室は市への申請が必要になっている。

(栗澤委員)

地域にいくと町内会の役員と老人クラブの役員と地域のそれぞれの活動の役員と全部同じ人がやっている。結局、それだけ高齢化が進んでいるということ。町内会も老人クラブも同じメンバーというのが多い。

(小泉議長)

(5)のその他ということでは何かないか。大槻委員はどうか。

(大槻委員)

出生率は減っていると思うが、その他に未婚率が増えているのではないかと感じている。例えば結婚ができる環境を整えるとか奨学金の返済を免除するとか非正規ではなく正規にするとかあると思うが、高齢者や介護保険の問題も全体的な中で考えることが必要だと感じた。

(小泉議長)

高田委員は何かないか。

(高田委員)

介護保険特別会計の歳出が 38 億から 39 億に億単位で増えたということ。それに対して資料 NO.2 の要支援・要介護者数が思ったほど伸びていない。また、高齢化率が伸びているが要支援・要介護者数が思ったほど伸びていない。歳出は細かいサービスが微妙に増えて、それらの積み上げが最終的に 1 億の増額になっているのかと。逆に言うといろいろなサービスがあるということがメリットなのかなと思った。ただ、総合事業のサービス B とか予防介護の方に少しずつシフトしているのかなと感じた。

(小泉議長)

藤原委員は何かないか。

(藤原委員)

若い人たちに住んでもらいたい。子供たちが少ない。若い人たちに住んでもらう環境をつ

くってもらいたい。

(佐野委員)

若い人たちに魅力のある釜石にしてもらいたい。若い人たちも結婚したあとの生活を考えると、子どもが欲しいけど生活が成り立っていない。さらに介護する方がいれば働かなければいけなくなり悪循環になる。

(佐々木委員)

50代の同世代でも体調を崩している人が多い。自分たちが自助努力して、あまり病気しないようにしなければいけないと感じている。それが最終的には介護保険のお世話にならずにやっていけるのではないかと感じている。

(小泉会長)

その他、なければ進行を事務局に一旦、戻します。